

みんなdeスポーツ! わが町の取り組み

今年2月25日、3年生の卒業を祝って最後の練習・ゲーム後に撮った記念写真



広島市立広島特別支援学校では、地域活動推進事業の一つとして土曜日や夏休みを利用し、主に高等部の生徒たちの余暇活動の充実と体力増進を目指してサッカー教室の活動を行っています。

22年前、休憩時間に生徒とサッカーをして体を動かしている時、「休みの日にもサッカーがしたいな」という生徒のつぶやきから、土、日曜日にもサッカーの練習を始めました。練習を重ねるうちに、「試合がしたい!」という声が上ががり、他の学校や施設に呼び掛けて、平成7年1月「第1回瀬戸内ピースカップ」という大会を開催しました。年に1回の大会を継続

広島県 生徒のつぶやきからサッカー交流の場広がる

し、今年も「第22回瀬戸内ピースカップ」を開催し、本校のサッカー教室、本校のOBチーム、作業所のチーム、クラブチーム、市外からの参加チームなど合わせて6チームでトーナメント戦や交流試合を行い、サッカーを通して交流の輪が広がっています。

競技スポーツのニーズも高まり、「ゆうあい広島サッカークラブ」も発足しました。全国障害者スポーツ大会の出場を目指し、また個人ではINAS（国際知的障害者スポーツ連盟）主催のサッカー世界選手権2018年スウェーデン大会の日本代表を目標とする選手もおり、練習に取り組んでいます。

生徒のつぶやきから始めたサッカーの練習でしたが、サッカー教室や瀬戸内ピースカップ、クラブチームとサッカーを通してスポーツで交流の場がどんどん広がり、中学生から40代の成人まで、世代を超え、それぞれの目的に応じたサッカーを共に楽しむ活動を継続しています。

（後藤雅之・広島市立広島特別支援学校教諭）